

製本のススメ

Vol. 51

花屋の店先には、色とりどりの可愛い花々が揃い、街のあちこちにも花が咲いてまさに春爛漫といった感じですね。GWの予定を考えるのも楽しみの一つです。

今回は失敗しない【丸背の上製本】のお話

丸背の上製本は印刷の基本知識と製本技術の全てが集積されており、紙や糊の性質から、加工技術のすべてを理解していないと綺麗な仕上がりは望めません。しかし、展覧会に出品するわけでは無いですから、気負わずにチャレンジ！して見ましょう。そこで失敗しないために絶対にやってはいけない事柄をピックアップしてみました。

紙目をしっかり確認してください。逆目では加工ができません！

紙目は【本になったときに天地方向に流れている事】が絶対条件です。逆目の用紙で、加工してくれる製本会社は有りません。

必ず8頁以上の折りの面付けにしてください。むろん、内容の都合でペラや4頁も有ると思いますが、その際には前後の折り丁へ貼り込みして加工します。

【二ツ折りのみや、ペラ丁合いだけでは、丸背に出来ません】

本の頁数を確認してください！【薄い本文では丸く出来ません】紙厚も関係します束厚(頁数でなく本文の厚み)が12ミリ以下では、背中を丸く出来ませんので角背がお勧めです。また折り丁数が15折以下でも、背中丸くなりません。

斤量の少ない(薄い)見返し用紙は使えません。

前号でも書きましたが、見返しは本と表紙をつなぐ大切な部品で、極めて強度が重要です。本文の厚みにも関係しますが、上質ならば(四六)110k以上・色上質ならば薄くても最厚程度は見込みましょう。

以上の4項目が出来ていれば、あとは野となれ山となれです。その他にも細かな注意点はありますので、印刷前には打ち合わせが必要ですが、ひとまず加工はできます。



Tea break

新入社員が入社して先輩になった人へ、どうしても良いような物凄い雑学をプレゼントしましょう。それは「画家ピカソ」の本名です。彼の本名は【パブロ・ディエゴ・ホセフランシスコ・デ・パウラ・ファン・ネポムセノ・マリア・デ・ロス・レメデオス・クリスピン・クリスピニャーノ・デ・ラ・サンテシマ・トリニダット・ルイス・イ・ピカソ】だそうです。飲み会の笑い話にでもなるかな？

by (株) 井関製本